

全森建

第139号

平成27年10月20日

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3
永田町ビル4階

一般社団法人
全国森林土木建設業協会

発行者 高畑博之 TEL.03-3581-3336
責任者 FAX.03-3581-3341

「全森建」では、七月二十九日から三十一日までの

平成27年度 森林土木総合技術研修 を開催



天狗の庭から望む火打山（妙高戸隠連山国立公園）
〔(一社) 新潟県建設業協会農地農林委員会 太陽開発(株) 提供〕

三日間の日程で、都内千代田区永田町の永田町ビル四階の会議室において平成二十七年森林土木総合技術研修を開催しました。

この研修には、全国の各協（議）会に加入している会員、森林土木事業を実際に施工している企業等の会社経営者や幹部、現場主任技術者等からの参加申し込みがあり、研修参加者は二十七名でした。

この研修は当協会の公益目的の支出に基づく事業であり、かつ、全日程を森林分野CPD対象研修として認定登録し、会員以外でも参加できる研修として計画しました。

この研修（研修カリキュラム…二頁参照）の第一日はオリエンテーション終了後、高畑博之全森建専務理事から「公共事業を巡る諸情勢」として、公共事業予算、国土強靱化・インフラ長寿命化関係、また、担い手の確保等と内容とする説明を行った後、(二社) 森林・自然環境技術者教育会（JAF E

E）CPD管理室長の弘中義夫氏から「技術者倫理と継続教育（CPD）」と題して、技術者が守るべき法律と倫理に関する詳細な解説、また技術力の適正な評価、継続教育（CPD）の重要性等についての講義がありました。

次に、治山の現場を熟知されている(株)山地防災研究所代表取締役の櫻井正明氏から「治山事業の施工



「治山事業の施工にあたって—
治山を知るための基礎知識—」
櫻井先生



「技術者倫理と継続教育
(CPD)」について
弘中先生



「コンクリート施工の基本と
ひび割れ防止策」について
松野先生



「日本の路網技術」
について
酒井先生



「林業と森林土木工事のシ
ナジー」について
両角先生



「労働安全のヒント」
について
奥田先生



「森林土木工事と会計検査」
について
宮原先生

講師の先生方

平成 27 年度森林土木総合技術研修カリキュラム

月 日	時 間	研 修 科 目	講 師 (敬称略)
○第 1 日 7 月 29 日(水)	13 : 00~13 : 10	オリエンテーション・開講式	眞田陽夫 (全森建事務局長)
	13 : 10~13 : 30	公共事業を巡る諸情勢等について	高畑博之 (全森建専務理事)
	13 : 40~14 : 50	「技術者倫理と継続教育(CPD)」について	弘中義夫 (森林・自然環境技術者教育 会(JAFEE)CPD管理室長)
	15 : 00~17 : 00	「治山事業の施工にあたって—治山を知るための基礎知識—」	櫻井正明 (株式会社山地防災研究所 代表取締役)
	17 : 30~	(意見交換会)	
○第 2 日 7 月 30 日(木)	9 : 00~10 : 30	「日本の路網技術」について	酒井秀夫 (東京大学大学院教授)
	10 : 40~12 : 00	「コンクリート施工の基本とひび割れ防止策」について	松野哲哉 (株CSTプロパティーセンター教育企画部次長)
	13 : 00~15 : 00	「今後の入札制度で必要とされる技術員」について	松野哲哉 (株CSTプロパティーセンター教育企画部次長)
	15 : 10~17 : 00	「森林土木工事と会計検査」について	宮原正治 (元会計検査院総括副長)
○第 3 日 7 月 31 日(金)	9 : 00~10 : 30	「労働安全のヒント」について	奥田吉春 (奥田技術士事務所代表)
	10 : 40~11 : 40	「林業と森林土木工事のシナジー」について	両角 実 (林野庁森林整備部整備課森林土木専門官)
	11 : 40~12 : 00	閉講式 (修了証書交付)	

に当たって「治山を知るための基礎知識」と題して、治山事業の基礎となっている我が国の国土の特徴（変動地帯、湿润気候等）や森林の持つ国土保全機能等について解説した後で、人命・財産を守る防災施設としての治山施設の基本的な考え方やその施工方法、また、災害事例から学びながら取り組まれてきた技術開発などの講義がありました。

講義終了後は、会場を移動して講師の方々と研修生全員が参加する中、意見交換会・懇親の場を設け自己紹介の後、時間の経つのも忘れて交流を深めました。

二日目は、一時限目として東京大学大学院教授の酒井秀夫氏から「日本の路網技術」と題して、日本列島の成り立ちの過程で生じる「付加体」と林道開設時に留意すべき「受け盤」「流れ盤」の関係、また低コスト路網整備のポイント、林業専用道と森林作業道の関係についても分かりやすく講義いただきました。

二時限目は、「コンクリート施工の基本とひび割れ防止策」として、(株)CSTプロパティエーター教育企画部次長の松野哲哉氏からコンクリート施工の基本、コンクリートのひび割れ防止対策等の講義

のほか、資料にない追加説明や自分が経験されたことなどを交えた講義が行われ有意義な講習でした。

午後からは、引き続き、松野哲哉氏から「今後の入札制度で必要とされる技術員」法改正を含めた変化と技術者に求めること」として、品確法改正関係、建設事業業継続計画（BCP）の評価項目の見直し、CIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）（公共事業の計画から設計・施工・協議・維持管理等に係る各情報の一元化等）の理念、ISOの規格改定など、直接入札に関係する最新情報がふんだんに盛り込まれたことから研修生も真剣に受講しました。

二日目最後の講義は、元会計検



研修のようす

査院総括副長の宮原正治氏から「森林土木工事と会計検査」について、会計検査院の役割や検査結果等について講義がありました。

最終日は、最近労働災害が多く発生している中、奥田技術士事務所代表の奥田吉春氏から「労働安全のヒント」の講義を受け、研修生一同、全ては現場にあり、を念頭に置き労働災害の未然防止の重要性を肝に銘じた講義でした。

最後の講義として、林野庁整備課森林土木専門官の両角実氏から「林業と森林土木工事のシナジー」と題して、森林・林業を巡る情勢、森林の多面的機能の発揮を支える森林土木事業について講義が行われました。

このように、研修生の皆さんは身近な施工関係の講義内容や、未知の分野についても見聞を広める機会になり、専門分野の各講師の内容ある十四時間の講義を受講しました。

研修の最後に閉講式があり、高畑専務理事から研修生一人一人に修了証書を手渡し、実り多い三日間の研修を終了しました。

今後に向けては、より研修効果が高い講義内容を目指して、研修生の期待する講義をしていたたく講師の依頼や、少しでも現場で役

立つような講義となるよう努力を重ねていきます。

研修受講感想文

栃木県森林土木建設業協会



那須土木株式会社
諏合俊弘

この度は三日間に亘り、平成二十七年森林土木総合技術研修に初めて参加させて頂きました。私は入社して十二年が経ち、主に森林土木事業に携わってきました。今回は、全国各地からベテラン技術者の方たちがばかりが集まり、様々な知識や経験を持った講師の先生方のお話を聞くことができ、大変勉強になりました。

その中で私は、二日目の(株)CSTプロパティエーター教育企画部次長の松野哲哉先生の講義を大変興味深く研修させて頂きました。

【コンクリート施工の基本とひび割れ対策】と【今後の入札制度で必要とされる技術員】という講義で、【コンクリート施工の基本とひび割れ対策】については、暑中

の温度上昇による打設温度の改正やコンクリートの配合について、ひび割れ防止対策といった内容でした。特に、生コン打設前の確認という内容では、生コン打設の方法を全員で理解すると良い生コンが打てるというとても単純な事ですが大変勉強になり、また現場の経験と物理学的特質をとっても理解されていて、話を聞いていてとても楽しかったです。

もう一つの【今後の入札制度で必要とされる技術員】については、現在の入札制度から施工体制台帳の作成、提出や社会保険関係、情報共有システムなど、今現在から今後の動きまで丁寧に説明して下さいました。今後様々な新しい制度ができて処理法もどんどん変わっていく中で、私たち技術者も環境の変化に対応していかなければ生き残れないと感じました。

その他にも、酒井先生の流れ盤と受け盤の話や災害を起こしやすい山の見方など、大変身になる内容ばかりで今後の事業に役立てたいと思います。

最後に、講師の先生をはじめ、(一社)全国森林土木建設業協会の職員の皆様には心より感謝申し上げます。大変お世話になりました。有難うございました。

広島県森林土木建設事業促進協議会



広島県神石郡森林組合
矢吹高広

平成二十七年七月二十九日より三十一日までの三日間、初めて森林土木総合技術研修を受講させて頂きました。

初日、参加者名簿及び三日間の研修科目を見た途端、場違いなところになってしまったのではないかと思います。それは参加者の内、森林組合からの出席者は私一人であったことと、研修の内容が土木中心のカリキュラムだったことです。そのことよって研修についていけるのか不安なスタートとなりました。

しかしながら、今日、森林組合でも森林作業道を作設し、その道を利用し間伐材を市場に搬出する事業が主となっており、当組合でも毎年約二〇、〇〇〇mの森林作業道を新たに作設し、一〇、〇〇〇mを超える間伐材を市場に供給していますので、森林組合であっても森林土木の重要性及び知識の向上が年々増しているのが現状です。私自身も職業柄、現場での作業指示が主たる仕事となることから、とにかく三日間何か新しいことを

知識として吸収して帰ろうと思いついて受講させて頂きました。

研修の内容はひとつとして同じ科目はなく多種多様な内容で、毎時間新しい気持ちで受講することができました。また、基礎的な内容が多く、普段の仕事以外の講義であっても十分理解することができ、森林組合であってもこれからの作業に採用もしくは新しい知識として活用できる内容が多かったと思います。その中でも「コンクリートの施工の基本とひび割れ防止対策」の講義に関しては、森林作業道の作設時に必要な作業種であり、今まではコンクリートの扱い方をさほど気にしないで施工していましたが、施工時のコンクリートの丁寧な扱いが大変重要であることを知ることができました。また、高畑専務理事をはじめ講師の皆様の丁寧な講義により、理解がより一層深いものとなったと思います。ありがとうございます。

初日の不安はどこかに飛んでいき、研修は大変有意義なものとなり、新たな知識の吸収と普段の仕事を見直すことのできた三日間だったと思います。

研修を終えて一ヶ月ほど経過しますが、研修内容をもう一度振り返り毎日の仕事に役立てていきたく

と思っています。

徳島県治山林道協会



南建設株式会社
高木 司

この度、平成二十七年七月二十九日より三十一日までの三日間、初めて森林土木総合技術研修に参加させて頂きました。

今回の研修の中で、私は特に二日目の講義がとても印象に残っています。

「日本の路網技術」では、東京大学大学院の酒井教授から講義を受けました。講義はともわかりやすい説明で、こちらに関心を持たせるような喋りかけで、九十分の講義があつという間に終わったような感覚になりました。

破碎帯の見つけ方や、過去に円弧滑りのあった地形の見つけ方などは特に山間部で仕事をしている私には参考になり、徳島に帰ってからの山の見方も変わったように思います。

また、日本の地形の作られ方や土の分布図を見て、とても参考になることが多かったです。

次にCSTプロパティセンター教育企画部次長の松野講師によ

る講義は、ゼネコンに居たときの自分の経験を交えながらの講義で、わかりやすく説明していただけた。午前の部の「コンクリート施工の基本とひび割れ対策」では、技術者として忘れていた内容を再認識したような気持ちになりました。生コン工場出荷からコンクリート打設完了・養生までの間の注意点を時系列でポイントのみ話していただきました。

また、初日研修終了後の懇親会・意見交換会では、全国から集まった受講者といろんなお話が聞け、本当に楽しかったです。突然の自己紹介コーナーでは、自分が何を喋ったか記憶にないのですが、皆さんのスピーチがとてもユーモアがあったり、グツときいたり、印象深かったです。

今回、このような貴重な研修会に参加できたことを大変うれしく思います。また機会があれば、是非参加させていただきたいと思えます。

最後になりますが、研修会でお世話になりました講師の皆様、(一社)全国森林土木建設業協会の皆様に心より感謝いたします。

そして、全国から集まった受講生の皆様、共に頑張りましょう。

平成二十八年度 林野関係予算概算要求の概要

I 森林整備事業・治山事業 (公共)

【二二三、二二五
(二八一、八五六)百万円】

◎〈対策のポイント〉

○ 施業の集約化を図り、間伐、

路網整備等を推進するほか、

森林吸収量の確保に向けた条

件不利地等における間伐や森

林整備の低コスト化を推進

○ 自然災害に対する山地防災

力の強化に向けた事前防災・

減災対策等の総合的な治山対

策を推進

◎〈背景／課題〉

○ 我が国の豊富な森林資源を

循環利用し、安定的な木材の

供給体制の構築に資するとと

もに、地球温暖化防止対策と

しての森林吸収量3.5%の

確保に向け、施業の集約化を

図り、間伐、路網の整備等を

推進する必要

○ 集中豪雨・地震等による激

甚な山地災害やシカ、病害虫

等による森林被害が各地で頻

発しており、国民の生命・財

産を守るための治山対策等を

推進する必要

◎〈政策目標〉

○ 森林吸収量の算入上限値

3.5%(平成2年度比)の確

保に向けた間伐の実施(平成

25年度から平成32年度までの

8年間の年平均…52万ヘクタ

ール)

○ 周辺の森林の山地災害防止

機能等が適切に発揮された集

落の増加(5.5万集落(平成

25年度)↓5.8万集落(平成

30年度)

◎〈主な内容〉

一 森林整備事業

【二四一、三七六

(二二〇、二八六)百万円】

(一) 施業の集約化を図り、間伐

やこれと一体となった路網の

整備、主伐後の再造林等を推

進。その際、列状間伐等によ

る効率的な間伐や伐採と造林

の一貫作業システムの導入を

通じた森林整備の低コスト化

により、面的な森林整備を推

進するとともに、林業専用道

の防災機能の強化を推進

・ 森林環境保全直接支援事業

【三六、七〇八

(二三、六〇〇)百万円】

・ 林業専用道整備対策

【一〇、九五六

(二〇、七三一)百万円】

(二) 奥地水源林等であって、所

有者の自助努力によつては適

正な整備ができない森林にお

いて公的主体による間伐等の

森林整備を推進するとともに、

鳥獣被害対策を推進

・ 環境林整備事業

【四、五〇〇

(二、七二六)百万円】

・ 水源林造成事業

【二六、四五六

(二四、八七〇)百万円】

二 治山事業

【七一、七四九

(六二、五七〇)百万円】

(一) 集中豪雨・地震等に起因す

る激甚な山地災害の発生リス

クの増大を踏まえ、事前防災・

平成28年度 林野庁関係予算概算要求の概要

1. 総括表

平成27年 8 月

区 分	平成27年度 当初予算額	平成28年度 概算要求額	対前年度比
	百万円	百万円	%
公共事業費	191,830	233,099	116.3
一般公共事業費	181,856	213,125	117.2
治山事業費	61,570	71,749	116.5
森林整備事業費	120,286	141,376	117.5
災害復旧等事業費	9,974	9,974	100.0
非公共事業費	98,533	119,820	121.6
合 計	290,363	342,919	118.1

(注)1 上記のほか、農山漁村地域整備交付金及び山村活性化支援交付金に、林野関係事業を措置している。

2 復旧・復興対策は、下記2に整理。

3 計数は、四捨五入のため合計とは一致しない場合がある。

2. 東日本大震災からの復旧・復興対策
(東日本大震災復興特別会計計上)

項 目	平成27年度 当初予算額	平成28年度 概算要求額	対前年度比
	百万円	百万円	%
公共事業費	43,402	32,740	75.4
非公共事業費	6,874	6,530	95.0
合 計	50,276	39,270	78.1

減災のため、荒廃山地の復旧整備や水土保全機能が低下した森林の整備に加え、予防治山対策を強化

- ・緊急予防治山事業（新規）
【二、五〇〇（二）百万円】
- ・復旧治山事業
【二七、〇一九
（二二、六四八）百万円】

- ・水源地域等保安林整備事業
【一〇、三六五
（八、六三〇）百万円】

(二) 高齢世帯率の高い中山間地域における治山等激甚災害対策特別緊急事業の対象区域の拡大など大規模災害からの早期復旧を推進

- ・治山等激甚災害対策特別緊急事業
【七一六
（二、三七〇）百万円】

- ・民有林直轄治山事業
【一二、八六六
（二一、四〇三）百万円】

(三) 火山噴火後の山地災害の未然防止のため、降灰状況等の調査や火山泥流等の流下を防ぐ緊急的な対策を、治山施設の設定や防災林の整備等と一体的に実施

- ・復旧治山事業（再掲）
【二七、〇一九

(二二、六四八)百万円】
・防災林造成事業
【三、二六七
(二、七七一)百万円】

II 農山漁村地域整備交付金

(公共)

- 【二二四、二八三
(二〇六、六五〇)百万円】

◎〈対策のポイント〉

- 地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策を支援

◎〈背景／課題〉

- 地域の特色を活かした地域活性化を図るためには、地域の創意・工夫によって、生産現場の強化につながる農林水産業の基盤整備を進めることが重要

- また、農山漁村地域において、地震・津波対策はもとより、集中豪雨等の頻発化・激甚化に対応するためには、防災・減災対策を推進することが必要

- このため、都道府県の裁量により事業を実施することが可能な交付金を措置することにより、強い農林水産業のための基盤づくりを推進する必

要

◎〈政策目標〉

- 担い手が利用する面積が今後10年間（平成35年度まで）で全農地面積の8割となるよう農地集積を推進

- 二酸化炭素の森林吸収量3・5%の確保等に必要な路網の整備

- 海岸堤防等の整備率66%（平成28年度）

◎〈主な内容〉

- 一、都道府県又は市町村は、農山漁村地域整備の目標等を記載した農山漁村地域整備計画を策定し、これに基づき事業を実施

- 二、農業農村、森林、水産の各分野において、農山漁村地域の生産現場の強化や防災力の向上のための事業を選択して実施

- また、これと一体となって事業効果を高めるために必要な効果促進事業を実施
- 農業農村分野・農用地整備、農業用排水施設整備等
- 森林分野・予防治山、路網整備等
- 水産分野・漁港漁場整備、漁村環境整備、海岸保全施設整備等

三、国から都道府県に交付金を交付し、都道府県は自らの裁量により地区毎に配分できます。また、都道府県の裁量で地区間の融通が可能
(水産分野の一部事業については、市町村への直接交付も可能。)

III 森林整備事業・治山事業

(公共)

- 【復旧・復興対策二一、〇八六
(二二、二〇五)百万円】

◎〈対策のポイント〉

- 間伐等の実施により、東日本大震災の被災地等における「災害に強い森林づくり」

- 東日本大震災で被災した海岸防災林の復旧・再生や山腹崩壊地等の復旧整備を通じ、地域の安全・安心を確保

◎〈背景／課題〉

- 東日本大震災により、青森県から千葉県までの140kmに及ぶ海岸防災林が被災するとともに、山地においても多くの箇所で山腹崩壊、林道施設等の被害が発生しており、台風や豪雨等により更なる被害の拡大が懸念

- 福島第一原子力発電所の事故により放散された放射性物

地方協会だより (6)

『海岸防災林造成事業』 成育基盤造成工の施工方法について

—宮城県森林土木建設業協会—



マツ林の被害状況 (工事着工前)

◆人工盛土(成育基盤)の造成◆

平成二十三年三月十一日発生した巨大津波により、海岸防災林が

平成二十三年三月十一日に発生した「東日本大震災」では、巨大な津波が海岸市町に押し寄せ甚大な被害が発生しました。市民の生活・安全を守るためには、早期の復旧・復興対策が必要であり、その一つである海岸防備等のための「海岸防災林造成事業」について、当協会前会長の協力を得て、施工地の概要について報告いたします。



津波被害によるマツ林の根返り状況

壊滅的な被害を受け、海岸防災林が果たしてきた飛砂・潮害・高潮・寒風防備及び津波の波力減衰や砂の移動防止、捕捉等が損なわれた。また、人々に親しまれてきたマツ林の風景がごとく失われた。そのため、海岸防災林(クロマツ林等)の早期再生のための成育基盤造成工の施工方法について述べる。

1. 盛土材の選定

成育基盤盛土材料の品質の目安は下表のとおりで、潮風や痩せ地に非常に強く樹高成長に優れ、砂丘に最も適するクロマツ(適地適木)を植栽するための「山砂」(盛土材)を選定する。

2. 盛土高

今回の津波被害は多くの箇所、根返り・流失が発生している(原因・地下水位が高いために根系の発達が不十分)。

このことから、津波に対して根返りしにくい林帯を造成する必要があり、地下水位等から2~3m

生育基盤盛土材料の性質の目安

種別	項目	評価指標	単位	測定方法	基準値
物理性	透水性	飽和透水係数	cm/s	透水試験	10 ⁻⁴ 以上
	硬さ	礫含有量	g/kg	篩い分け秤量	200 以下
化学性	電気伝導率	電気伝導度 (EC)	dS/m	EC メータ	0.5 以下(砂質土) 1.0 以下(その他)
	酸度	pH	—	ガラス電極法	5.6 ~ 6.8 良 (4.5 ~ 8.0 可)

地方協会だより (6)



盛土・防風柵完成状況



クロマツ植栽完了状況

程度の高さを確保する盛土とした。

また、盛土法尻面保護のため、周囲には丸太柵工を施工した。

3. 植栽に配慮した盛土材の施工方法及び防風柵の設置

①健全なマツ林等になるための盛土材の敷均し方法は、最深处から、順次ブルドーザーで購入土を過転圧にならないよう盛土定規を目安として均一に敷均し、盛土面全体を仕上

げ完了する。

②下り勾配で負荷及び緊密度を小さくして均等に仕上げ、植栽木の生育を良好にする。

③土壌硬度のチェック(山中式土壌硬度計で平均25mm以下とする。)

④盛土天端の排水対策

盛土天端の排水対策として素掘水路を、法面浸食対策としてU型水路工をそれぞれ計画した。

⑤暴風対策として防風柵を設置した。

4. 安全対策及び周辺環境に対する配慮

山砂運搬(ダンプ台数・60台以上/1日、運搬回数・5回/1日・1台)の総ダンプ台数が多いことから、ダンプ運転手に対して、
①運搬経路に関する事前教育・都度教育の周知徹底
②「ゆっくり」運転の遂行、「熟

練」ドライバーの採用による「マナー運転」及び「思いやり運転」の徹底

③騒音防止対策(整備不良車の排除)を行うとともに、工事現場内は、市街地等のため、低騒音型建設機械を使用し、市道は散水車により粉塵対策を実施

④安全面では、作業時は全員参加の危険予知訓練の実施及びオーバーアクションによる合図の徹底等…基本ルールの徹底による安全作業(安全に手抜きなし)等を行った。

◆植栽完了◆

仙台湾地域は、暴風等の年間日数が多く、潮風等自然条件に委ねることになるが、適正な植栽完了後の維持管理(補植・施肥・本数調整等)が海岸防災林では重要となっている。

(クロマツ植栽本数5,000本/ha当たり)

『早期仙台湾沿岸部『海岸防災林の再生』』

七ページよりつづき

質の影響のある地域では、森林所有者の経営意欲の減退、被ばくへの不安等から、森林整備が停滞するおそれがあり、森林の公益的機能の低下が懸念

◎〈政策目標〉

○ 土壌を保持する能力等が良好に保たれている森林の割合の増加。

○ 海岸防災林の復旧・再生は、林帯地盤等の復旧が完了した箇所から順次、植栽を実施。全体の復旧は平成23年度から概ね10年間で完了することを目指す。

◎〈主な内容〉

一 森林整備事業

豪雨等による森林からの放射性物質を含む土砂の流出防止を図るため、岩手、宮城、福島の被災3県において、放射性物質対策と一体となった間伐等を行う森林所有者等への支援を行う。「災害に強い森林づくり」を進めるとともに、特に放射性物質の影響等により、森林所有者による整備が進み難い人工林等において、公的主体による緊急的な間伐等

二 治山事業

東日本大震災で被災した海岸

防災林の復旧・再生や山腹崩壊地等における復旧整備

・森林整備事業

【五、四六四

(四、七〇六)百万円】

・治山事業

【一五、六二二

(八、四九九)百万円】

林野庁幹部人事異動(関係分)

次のとおり異動がありました。

平成二十七年七月二十八日付け

◇四国森林管理局長

大山 誠一郎

◇水産庁出向(水産庁付へ)

浅川 京子

◇林野庁国有林野部長

川端 省三

平成二十七年八月七日付け

◇林野庁国有林野部長

黒川 正美

◇北海道森林管理局長

黒川 正美

◇九州森林管理局長

林野庁国有林野部長

◇九州森林管理局長

黒川 正美

◇林野庁経営企画課長

新島 俊哉

(林野庁整備課長)

◇林野庁整備課長

池田 直弥

◇林野庁研究指導課長

宮澤 俊輔

◇林野庁研究指導課長

宮澤 俊輔

◇林野庁木材利用課

稲本 龍生

◇林野庁木材利用課

稲本 龍生

◇農林水産省大臣官房

古久保 英嗣

◇政策情報分析官

古久保 英嗣

平成二十七年九月三十日付け

◇(独)農林漁業信用基金理事

飛山 龍一

◇農林水産省出向(大臣官房付)

青木 庸三

◇(近畿中国森林管理局長)

青木 庸三

平成二十七年十月一日付け

◇林野庁林政課

津元 頼光

◇(独)農林漁業信用基金副理事長

津元 頼光

◇林野庁業務課長

小坂 善太郎

◇(林野庁木材産業課

木材製品技術室長)

◇東北森林管理局長

瀬戸 宣久

(森林技術総合研修所長)

◇近畿中国森林管理局長

馬場 一洋

◇(大臣官房付)

◇森林技術総合研修所長

小山 富美男

(林野庁業務課長)

「全森建」事務局長 退任・新任

「大変お世話になりました。」

前事務局長 眞田 陽夫

「よろしく願います。」



新事務局長
竹中 三成

これからの行事予定

「全森建」技術・労働委員会

(東京都千代田区)

11月24日

編集後記

本年はエルニーニョ現象により、天候不順が続く、各地で豪雨等災害が発生しています。被災された方々にはお見舞い申し上げます。